

ひのたにえん

R8年 夏号

4/2 花見会

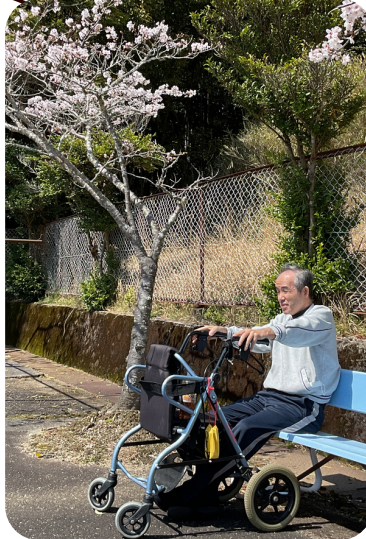
ひのたに園花見会を開催しました。この日は風が強く桜の花びらも少し散っていましたが、天気は快晴で桜の花も満開に近い状態でしたので絶好のお花見日和でした。

着任式終了後、園長の開会の挨拶とともに花見会を実施しました。午前中は利用者の皆さんに桜の木を完成させてもらうために、画用紙で作った桜の幹に花びらを貼ってもらいました。花びらには今年の目標や意気込みを書いてもらい、皆さん楽しんで桜の木を完成させてくれました。

お昼は、利用者の皆さんは着任職員や来場者と楽しく雑談しながら、花見弁当を召し上がられました。

午後からは、カラオケ大会と喫茶を開催し、カラオケ大会ではエントリーされた利用者さんが自信のある曲を思う存分熱唱していました。表彰式で園長から賞状と景品をもらい、皆さん嬉しそうな顔をして喜んでおられました。その後の喫茶では、クレープバウムとキャラメルベニエを提供しましたが、皆さんとても美味しそうな顔をして召し上がっておられました。

お楽しみ会やカラオケ大会、喫茶を通じて、参加したみなさんが一緒に楽しめて親睦を深めることができた花見会でした。(小島)



5/3 日野祭り

「や〜れ！や〜れ！どんとや〜れ！」の掛け声のもと3基のお神輿が日野町内を回り、豪華絢爛な14基の曳山が馬見綿向神社を華やかに飾る日野祭りを皆で楽しむことができました。

午前中は地域の方が力を合わせて曳山を神社に並べます。煌びやかな装飾と圧倒されるその存在感に利用者さんも職員も目を奪われていました。そしてお祭りの醍醐味の屋台に利用者さんも心を躍らせ、自分たちの好きな物を食べてお祭りを存分に楽しんでおられました。

午後のお神輿では、ひのたに園職員・利用者はつどえばかり観覧し、目の前を通る担ぎ手の方の熱意や全力で祭りを楽しんでおられる姿を見ることができました。利用者さんも楽しい気持ちになり担ぎ手の掛け声に合わせて一緒に声を出し、園内では見られない姿を見ることができました。

お祭りの担い手だけでなく周りにいる観客も一緒になってお祭りを盛り上げる、そんな素敵な日野祭りでした。(藤井)

ひのたに園紹介

ひのたに園は、1970年6月、滋賀県日野町に開設した救護施設です。救護施設とは、さまざまな障害や生きづらさを抱え、日常生活などに困っている人が、安心して自立を目指せる施設で、生活保護法に基づいています。入所者と職員をあわせると、100人を超える人が暮らし、支えているひのたに園とはどんな場所なのか。齋藤誠一園長と森嶋友里子副園長にお話を聞きました。（2026年6月2日 聞き手：赤澤）



あって当たり前の施設になっている
——齋藤誠一園長

——ひのたに園には現在87名の方が入所されています。「日常生活などに困っている人」とは、具体的にどのような方たちでしょうか？

齋藤園長（以下、齋藤） ひのたに園は、対象者を限定しない施設です。お金がなくて住む場所がない人もいれば、障害があって生活が困難な人もいます。ほとんどの時間を園の中で生活している人もいるし、外に出て働いていたり、自由に買い物や図書館に行く人もいます。

——外に出れば、日野町の人たちと利用者さんが触れ合う機会もありますよね。町の人にとって、ひのたに園とはどんな存在でしょうか？

齋藤 「詳しくは知らないが、なんかええことしてる施設やな」といった感じで、ひのたに園に理解を示してくれている方が日野町にはたくさんいらっしゃると思っています。ひのたに園が56年間存在し続けてきたということが、大きなアドバンテージになっていると思います。

森嶋副園長（以下、森嶋） ひのたに園は山の中にある施設なので、日野町の人にはあまり知られていないのではないかなと思っていたのですが、そうではありませんでした。ここで暮らす人が町に出ていくことで、「ひのたに園の人かも」と認識される機会が増えていると思います。

齋藤 ひのたに園は、日野町にあって当たり前の施設になっているんじゃないかな（笑）。コロナ前は納涼祭などのイベントに多くの地域の皆さんが参加されていました。ちっちゃな子ども連れて遊びに来てくれた家族もありましたよ。

——2023年には日野商人街道沿いに交流スペースとなる「つどえば」をオープンしました。

森嶋 「つどえば」は、内職など軽作業をする場所として活用していますが、月に1回、子ども食堂を開催したり、アトリエ・セラミカで制作した陶芸作品を展示するギャラリー＆ショップを開設したりしています。子ども食堂には、80人を超える人が来ることもあるので、日野町とひのたに園をつなぐ大切な場所になっていますね。

得意分野を見つけた職員が成長していく

——ひのたに園で暮らす入所者は、全員が生活保護の受給者となります。どんな人生を送ってきた方が多いのでしょうか？

齋藤 開設した当初は重度の障害のある方が多く入所されていました。50年以上ここで暮らしている方もいます。2010年ごろから経済的な理由による入所者が増え始めたようですが、それはリーマンショックの影響で雇用の機会を失った方が多かった。新型コロナの時期は入所の依頼が殺到しました。救護施設の稼働率が上がるって、世の中、あまりよくない状態ですよ。物価高や雇用止めみたいな厳しい現状を、肌で感じる場所でもあります。

森嶋 ここまでたどり着くだけでも、大変な人生を歩んで来られているんです。ひのたに園のパンフレットを手にしたときが、その人の人生にとってどん底かもしれない。何かにすがりたい、少しでも生活を改善したい。そんな小さな「希望」を持って、ひのたに園の扉を叩いている人たちがいます。そんな人たちの「希望」を、職員の力を合わせて支えていきたいと思っています。

——ひのたに園には、事務員、支援員はもちろん、相談員や看護師、料理を作る人、洗濯をする人、介護宿直をする人など、様々な人が働いています。

齋藤 福祉のことを学び、福祉の現場で働きたいと希望された人が多く働いていると思います。「困っている人を支えたい」というモチベーションは、全員が持っているのではないのでしょうか。それぞれ役割は違いますが、相談しながら助け合い、それぞれが主体的に利用者に向き合っていると感じます。

これからの社会では、幅広く誰とでも雑談ができたり、コミュニケーションする能力が必要となってくると言われています。AIでは担えない、高い応用力が求められます。救護施設は対象者を限定しない施設なので、この環境で揉まれて、悩みながら、自然と身についていく力といってもいいのではないのでしょうか。

——離職率は低いそうですね。続けられる要因はどこにあるのでしょうか？

齋藤 いろいろな利用者が暮らしているので、何らかの得意分野にフィットした仕事が見つけられるところにあるのではないのでしょうか。高齢者施設に勤務していて介護が苦手だと逃げ場が見つけづらいのですが、ここでは介護が苦手でも障害のある人とおしゃべりすることが得意なんて人もいました。多様な人が暮らしているので、必要とされる仕事や役割も多様になる。職員の得意分野を活かしたマネジメントも意識しています。

森嶋 利用者さんの存在も大きいと思います。ひのたに園に来るときは、最後に急な坂道を登るのですが、その坂道に今では落ち葉1つないのが当たり前になりました。朝から、毎日掃除してくれている利用者さんがいるんです。気持ちよく坂を登ることができます。職員と利用者みんなで作り出した空気感が、働きやすい環境につながっているのではないかと思います。

——最後に、今後、目指すところを教えてください。

齋藤 ひのたに園に来る、そして出ていった方の支援はもちろんですが、ひのたに園にたどり着けないけど、困っている人の支援も考えていかなくてははいけません。生活保護の対象者ではないが、住まいを失いかけている人もいると思います。そういった人たちに多目的に利用できる住居を提供して、ひのたに園で培ってきたノウハウを提供することができないか。社会参加や就労支援の力になるような事業を日野町内で作ることができないか。そんなことを考えているところです。

小さな「希望」を支えていきたい

——森嶋友里子副園長



データで見るひのたに園

年齢層 20代から80代まで（18歳以上が入所可能）
男女比 男性：73% 女性：27%

平均在籍年数 6年（1年未満：36% 40年以上：2人）
令和7年度退所先 居宅：36% 自主退所：20%
救護施設・無料低額宿泊所：13% 社員寮：11%
老人福祉施設：8% 病院：7% その他：5%
※データは令和8年3月31日現在





あぐりひのたに🍅

あぐりひのたには活動を始めてから今年8年目に突入します。今は毎週月曜日に活動しており、季節に合わせた野菜を利用者さんと育てて、収穫した野菜は火曜日午後つとえばにて販売しています。そこで、初期から継続して活動に参加されている藤川さんと近藤さんに畑仕事のやりがいや楽しみなどを伺いました。（聞き取り・文 高田）



あぐりで活躍中の藤川さんと近藤さん

――あぐりひのたにの活動でのやり甲斐や楽しみはありますか？

藤川さん 作ったものが売れるのがうれしいし、それでやりがいを感じる。

販売をこの前見に行ったら売れて いくのが直に見られて余計にうれしかった。

近藤さん 育てて野菜が出来る事が楽しい。前は見ただけではわからない野菜も今では苗を見たらだいたい何かわかるようになった。

――なぜ続けてこられたのか、特に藤川さんはひのたに園退所後も通って参加されているのはなぜですか？

近藤さん 楽しい！作るのが楽しい。

藤川さん 活動メンバーやひのたに園の人と関わっているのが楽しい。

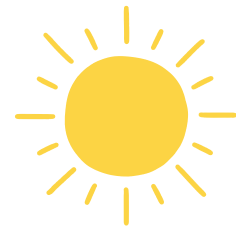
一生懸命作った野菜が売れるのが特にうれしい。

――今後の楽しみは？

近藤さん サツマイモが育つのが楽しみ。

藤川さん プチトマトが大きくなってきて色づくのが楽しみ。

去年より大きい実がなっているからまた収穫しながら味見しようと思う。



伊藤 匡剛さん（生活支援員）

オープンスペースレガーとから異動してきました、伊藤です。

趣味は、絵を描いたり、音楽を聴いたり歌ったり、マニュアル車を運転してのドライブ、格闘技の動画を見たりするのが好きですが…今は自分のことよりも2人の息子と遊んだり、出かけたりするのが一番楽しいです。

ひのたに園では今までの経験を基に、日々取り組んでいます。職員や利用者みなさん、そして地域の方々との出会いを通して、学んでいきたいと思ひます。ひのたに園に馴染めるように、明るく頑張りたいと思ひます！

赤澤 誉四郎さん（生活支援員）

地域共生部からきました。介護職は初めてですが、皆さんにいろいろと教えていただきながら、経験を積んでいます。利用者の皆さんが安心して任せられるよう、早く成長したいです。ひのたに園は働いている皆さんがつくる雰囲気がとてもいいと感じています。利用者の皆さんも話しかけてくれるので、毎日が楽しいです。趣味は、サッカーや野球などのスポーツ観戦、音楽を聴くこと、演奏すること。旅行も好きで、御朱印を集めたり、美術館やお城めぐりなどを楽しんでいます。皆さん、よろしくお願いします！

着任職員紹介



伊藤さん（左）とみつやさん↑
赤澤さん（左）とみつやさん↓

